

## インドで中国人がヨーガ修行とは

コラムニスト・アジアソウオッチャー  
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

インドに長く住む日本人の友人に誘われて、インド中部の文化都市プネーを訪れた。今回の目的は、プネーとムンバイの間にあるロナウラという所にあるヨーガ学院でアユルベータの治療を受けることだ。アユルベータはインドの伝統医療で、西洋医学と対をなし、自身の体調に合わせたトリートメントが行われる。自然の薬草などを配合したオイルを塗り、体全体を掃除するイメージであった。

直接の効果は別にして、1週間の間、インドとはとても思えない静かな自然環境の中で、ヨーガを行い、ベジタリアンフードを食べる規則正しい生活をしただけで、大いに体が軽くなり、血圧も下がったことは、いかに日常生活が乱れているかの証拠となった。

その静けさの中で、時折大きな話し声が気になった。インド人が筆者に向かい、「あれは喧嘩しているのか」と聞いてくるほど、激しい議論をしている人々もいた。中国人がグループでここを訪れていたのだ。聞けばこの学院は中国人のために、2週間のヨーガ研修コースを設けている。どこへ行っても中国人はウルサイと言われるが、この静けさの中では大いに目立ってしまう。彼らだけが異質な集団に見えた。

ヨーガごときでなぜそんなに議論しているのかと聞いてみると、彼らの数人は中国でヨーガスタジオを開いており、インドの知識を自国に持ち帰り、飯の種として活用しようとしていた。ちなみに彼らのコース費用は1500米ドル、これに往復航空券代などを考えると、日本円で最低

でも20万〜30万円の旅費となり、結構な出費となる。真剣にならざるを得ない。

参加者は北京や上海、広州など中国の大都市から集まってきており、費用から考えてもプチ富裕層に当たる。英語が堪能な人も多く、海外留学中にヨーガを覚えた人もいた。今や中国のどこにでもヨーガスタジオがあり、一種のブームとなっている。6〜7年前、筆者は上海でサルサパーに連れて行かれたが、そこで踊っていたのは弁護士やパイロットなど一定以上の収入と地位のある人ばかりで驚いたことを思い出す。広州から来たという弁護士が言う。「中国も高度成長の時代が終わわり、経済成長から心の安定へ関心が移り始めている」。日本でヨーガと言えば「ダイエット」などを目的にした

体操のように思われがちだが、実は心と体のバランスを維持することや体の調整を図ることを目指している。経済的に成長した中国はまさに今、その成長の維持に目標を移してきている。ヨーガに秘められたメッセージを知らず知らずのうちに取り入れようとしているのかもしれない。

それにしても、中国とインド、アジアの大国同士は決して仲が良いとは言えないが、実はインドでもヨーガの実践者は決して主流の人々ではなく、一般的に行われることは少なかった。そのインドでもヨーガが大いに見直されてきており、アユルベータ治療もヨーガとの組み合わせが効果的とされる。今回は短期間ではあったが、ヨーガが人々の心の安定を維持してくれることを願う旅となった。